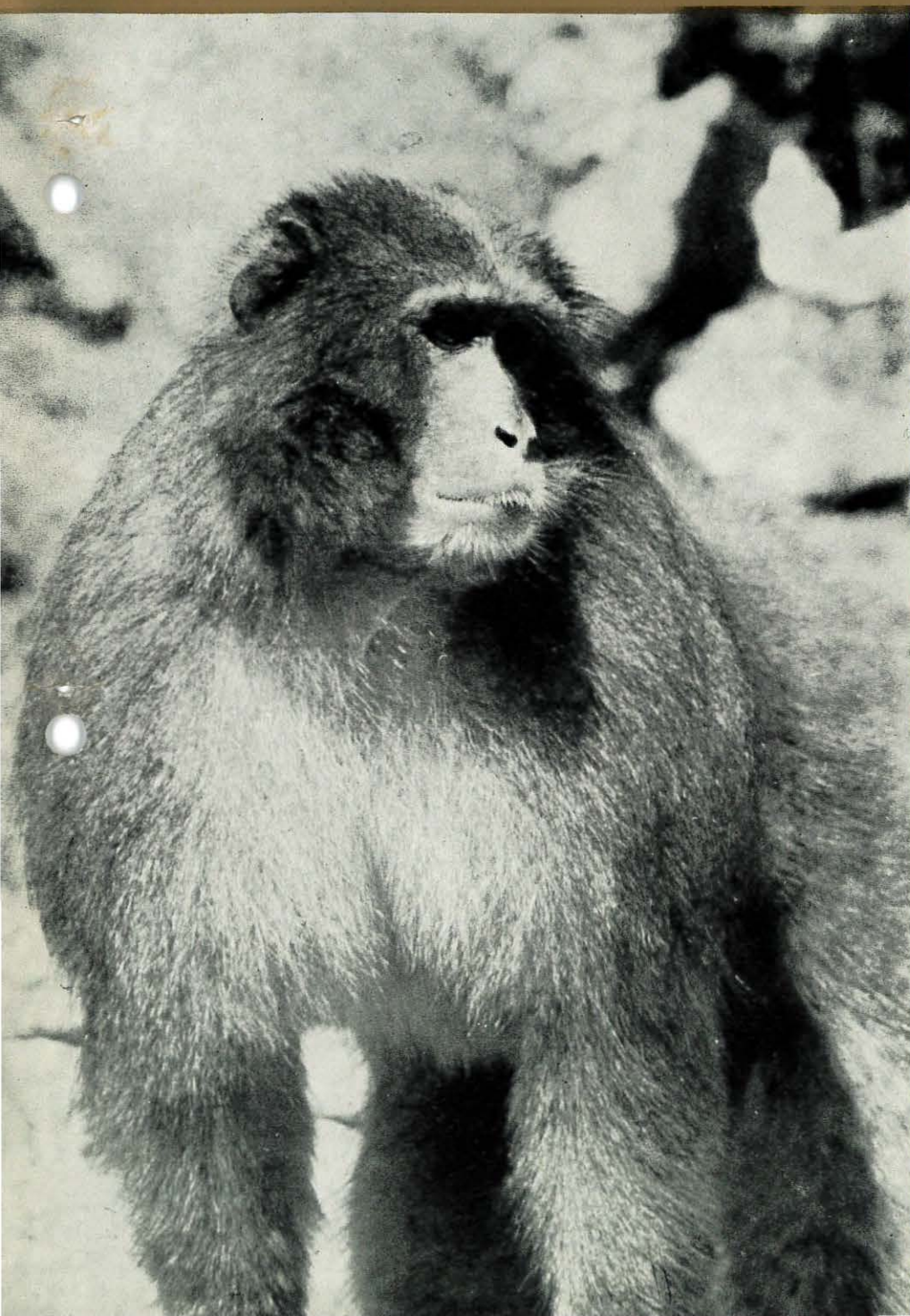


なきごえ



1968

1

大 阪 市
天 王 寺 動 物 園 協 会

新年のごあいさつ



みなさま明けましておめでとうございます。

輝やかな昭和43年の新春を迎えましてごあいさつ申し上げます。昨年5月当協会が設立以来、本来の目的であります天王寺動物園の発展

に協力し、また入園者に対するサービスのため努力してまいりました結果、動物園並びに市民のみなさまから絶大なご賛同を得ましたことは会員のみなさまと共にご同慶にたえない次第でございます。

しかしながら動物園が引続き整備拡充され、入園者も増加してまいりますと、協会といたしましても、ますます市民サービスが必要であると思っております。

昨年11月より初事業として手荷物預り所、うば車の貸出しをいたしましたところ、大変ご好評をいただきしておりますが、引続いて新年度より更に事業を拡大して売店及び簡易な遊戯施設を設け、入園者の便宜に供したいと存じております。

本年は当協会にとりましてかなり多難の年ではありますが、申年に因んで大いに躍進してみなさまのご期待に添いますよう努力いたしたいと思っておりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、みなさまのご健康とご多幸を心からお祈りいたしまして年頭のごあいさつといたします。

社団法人 大阪市天王寺動物園協会

会長 中馬 富美子



皆さん、新年お目出度うございます。“なきごえ”の紙面を通じ、皆様向日頃のお礼を兼ね、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は格別のご支援をいただき、厚くお礼を申し上げます。お蔭様で天王寺動物園は大阪市の大

発展と共に近代的動物園へと改修工事を進めております。しかしながら、大大阪市にふさわしい動物園にするためには今後とも皆様的一段のご支援を賜り、早く日本一の動物園にしたいものと職員一同勤務に精励いたしている次第であります。どうかこの上とも宜しく願い申し上げます。

昨年を顧みみますと動物園にとっては大変前進した年でありました。

まず第1に、昨年5月1日を以て従来の天王寺動物園の後援団体が社団法人大阪市天王寺動物園協会として新発足したことであります。会長には私たちが願っても願えない中馬市長夫人を迎え、全職員にとっては忘れられない喜びと感激の年でありました。

第2には、私の最も念願である動物園の将来の拡張計画として、天王寺公園全体を子ども達に喜ばれる楽園とするべく検討されつゝあることであります。

第3には、世界18カ国の主要動物園20園との親善動物交流を計画し、すでに各国から大賛成の回答が届けられていることであります。この交流によって更に多くの珍しい動物を収容し、併せて各国と動物を通じて親善の度を深める機会をつつたのであります。

第4には、動物園の現在の職制では貧弱であり、これが充実のきざしが芽生えた年であったのであります。

更にまた、新設動物舎として、冷房ペンギン舎、ラクダ、カンガルー舎、カバ舎、ステージなどが完成し、園内の面目が一新したことであります。

このように、53年の歴史を持つ天王寺動物園は皆様のご理解とご支援によって年々躍進を続けておりますが、今年は更に大躍進を信じ新年のご挨拶といたします。

大阪市天王寺動物園

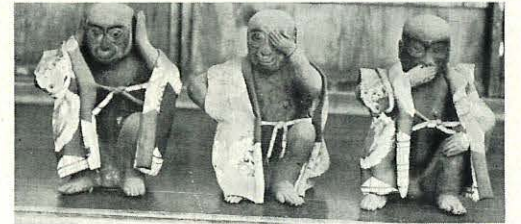
園長 和田 辰巳

サルの話〔Ⅲ〕

吉田平七郎

◇ 元亀2年今から397年前の実話でこれは作り話ではない。京の都に完又十郎という獺師がいて、ある日鷲ヶ峰の奥の原谷で1匹の大猿を見つけた。早速弓矢でねらったところ、その猿は首に何か妙な物をつけている。そうして又十郎の方に向かいしきりに両手を合せて拝んでいるではないか。逃げようともせぬので近づいて行くと猿は首にかけている物をはずして投げてよこした。それは竹の皮包みで何か字の書いてある紙切れが中から出てきたが又十郎は字が読めない。あっけにとられてその日はもう獺をあきらめて帰ることにした。途中1人の坊さんに出合ったので猿からもらった妙な紙切れを見せると南無阿弥陀仏と書いてあった。これは当時有名な円誉上人が小室山の奥で修業しておられた時、猿や鹿がよくついて毎日遊びにくる。特に猿は上人と親しくなり、時に柿や、山のいも等と季節の果物を持ってきたという。(このへん餌つけの問題でその逆だったかもしれない。)上人は可愛い動物たちにお守りをつけてやられた。それを猿が持っていたのだと教えられて又十郎は今更殺生の罪が恐しくなり、正行院の円誉上人に弟子入りをして円心房となった。今に猿の首輪から出てきた名号が保存されていてこのお寺を猿寺と呼ぶようになった。上人の坐像に15種大の猿が合掌している木像も見られる。この話は小鳥に説教したアッシジの聖フランチェスコにも匹敵する逸話に値する。京都駅前ステーションホテルの東裏に猿寺(正行院)がある。

◇ 猿に関係のある特種取材のために私は又東山栗田口の庚申堂(尊勝院)を訪ねた。豊臣秀吉も守護神として信仰していた庚申尊の前に伝教大師作と伝えられる日本最古の三猿がある。三猿といえば見ざる、聞かざる、言わざるのことで両手で目耳口をとぎした三猿と誰しもきめてしまっている。有名な日光東照宮の三猿も世界的に知られ海外では「悪いことは見ない、聞かない、言わない三匹の賢い猿」と訳されている。これは封建時代の「よらしむべし知らしむべからず」という思想を最も具体的に民衆に教えるために作り変えられたものであった。現代昭和の三猿はよく見、よく聞き、よく言う積極的な見る猿、聞く猿、言う猿であってほしいと嵐山の岩田山野猿公園の入口には小門光男作のリベラル・モンキー(自由民主猿)がある。中には猿に双眼鏡やメガホンを持たせた創作まであり、人々は古きものをしりぞけ、新らしきものにあこがれがちになるものだが、伝教大師の三猿の元祖はそのどちらでもなく、どちらでもあったのには驚いた。すなわち三猿が何れ



三猿の元祖

も片手だけで目耳口をおさえ、片目、片耳、片口は開放しているのだ。これこそ理想的な三猿で善いことは見て聞いて言っても、悪いことは見るな聞くな言わないと解釈できる。温故知新、最も古い三猿が誰も知らなかった最も新しい三猿であったことは面白い。

◇ 栗田の庚申さんにあるこの三猿に訴訟をおこすものが祈ると相手が自分に都合の悪いことを見ても見ざる、聞いても聞かざる、言うても言わざるになるとはあきれた人々だ。八坂の庚申堂は又悪因縁を去ると願いをこめた括り猿がたくさん結んである。天王寺の庚申堂には生きた三猿(雄)まで飼われており死んだ猿のお墓まであって感心した。元来庚申待といつてかえさるの夜人が眠ると三匹の怪虫が人体からはなれて天帝におかした悪事を告げるという中国伝来の風習で、その夜は眠らずお祭りする。本尊は時代でうつり変わったが山王信仰でお使の猿がくつき、過ちを不見不聞不言の三猿に託したことになる。それが江戸時代から青面金剛尊になっても猿だけが庚申、かえさるで願いが叶う猿で残された。庚申の夜に交るとその子は盗人になるといわれ、手癖の悪いことを手が長いともいう。しかし紫又帝釈天の猿は盗難除けになり、はじき猿は災難をはじきさる。天王寺庚申堂の紅絹の括り猿(猿守)は抱瘡除け、太融寺三猿のお札は小児の夜泣き止めにもなっている。和歌山の瓦猿や熊本の本木の葉猿は安産・子育て、住吉の喜々猿は喜びが重なってめでたく、伏見の土猿はよいことござるになる。日吉神社の出世猿、嵯峨面の知恵猿とあり、大津絵の瓢箪鯉猿は水難除けとある。

◇ 猿回わしは馬の厄払いで日光東照宮の神厩舎には有名な猿の木彫があり16匹の猿が人の一生を示しているという。又京都御所の築地の東北角を猿ヶ辻といい藁板に木彫の猿が見られるのは鬼門を守る魔除けのためである。まことに多彩な猿と人生のつながりではある。中には猿は去るに通じるので獺師はエテコウとか山のオヤジ等と呼び、又猿年の嫁とりを嫌ったが、そこは人間の知恵で猿が三番叟を舞っているおもちゃを嫁にもたせてやり猿舞で去るまいと祝った。瀬戸焼で瓦の上にちょこんと坐っている猿を見つけたがこれは相変らざるでめでたいという。とかく世間は縁起をか

次頁につづく→

動物園グラフ

「千支にちなむサルのおもちゃ展」から

サルは昔から人間にたいへんなじまれている動物です。それだけに古くからサルを形どった玩具やおキモノ/民芸品も多くあります。

サルのおもちゃ展には10カ国 150点が展示されていますが、その一部をご紹介します

寝屋川市池田
おもちゃの動物園 吉田平七郎氏所蔵



↑ 埴輪のサル (日本)

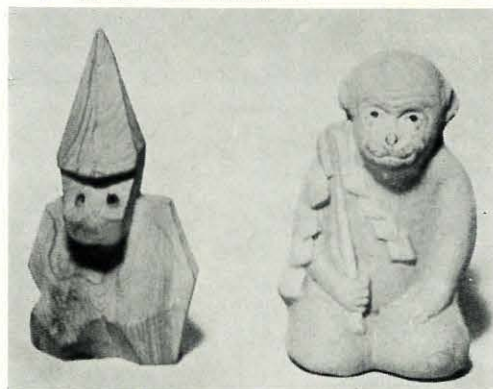


知恵猿 (嵯峨面) →

リタとロイド
(当園の戦前の名優たち)
↓ 岩田千虎作



↓ 出世猿 (日吉神社)



↑ 逆三猿

↓ 関白猿



↑ 住吉の喜々猿



↑ 考えるサル (イギリス)

スポンジ
サル →
(イギリス)



ひねりサル →
(パリ島)

↓ 祖仙の猿



孫悟空 (中国) ↑

マントヒヒ (エジプト) →



→サルの話つづき

つぐものでおめでたい人が多い。

◇ 昔エジプトではマントヒヒが神の使いで、インドではハヌマンが猿神話で活躍しているので知られ、中国には孫悟空があり、日本では桃太郎のお供となり金太郎や猿蟹合戦で知られ、能狂言、芝居にも出てくる。さいわい日本には猿がいたので古くは埴輪の猿から名画も数々残っている。ともあれ私は毎日 大阪城を見る度に猿面冠者を偲び、日本猿を見る度に豊臣秀吉を懐しむ。日本人なら日本一の英雄、百姓から天下の関白となった

猿年生れの太閤さんを猿年に因んで思出すにちがいない。楠井昭子作(東山工芸)の関白御猿(かんぱくでござる)は傑作、紙塑人形の金の冠、瓢箪と桐の紋をつけた陣羽織、色も形も品のよい出来栄で正に日本一の愛嬌をふりましている。珍品といえば英国のダーウィン猿を私はもっている。進化論が世に出た頃、よく彼も猿の漫画にされた由。ポーズから考える猿と改名して天下一品、世界一の猿である。

(おわり)

12月動物園日記

1. 別室で育成中のオオヅルのひなは大きくなったのでツル舎にもどしました。
2. メンヨウに赤ちゃんが生まれました。
3. クロザル1頭の寄附がありサルアパートで見合っています
4. 新カバ舎の引きつぎを行い、プールの水張り、暖房、清掃を行い、カバの入居準備を行いました。
5. カバの移動を行いました。初霜があり、朝夕の冷え込みが一段ときびしくなってきました。熱帯産のセリーマは暖房室に入れ越冬させることにしました。

6. 阪神パークより同園で産卵したダチョウの卵3コをあずかりふ卵器に入れました。
8. キリン舎、サイ舎に暖房を開始しました。
21. あたり年のサル舎にしめなわ飾りをしました。幼稚園児を招いてチンパンジーがおもちつきをしました。
22. エトにちなむサルのおもちゃ展のおもちゃの搬入を行い新聞発表を行いました。
23. 一足さきにクリスマスを行い、ゴリラに大きなケーキが贈られ、さっそくパクついていました。
30. 31 休園日で、お正月の開園にそなえて園内の大掃除を行いました。

大阪府下の野猿

みのお 箕面の野猿

おサルの研究が詳細に進むことは、一口に云えば同じ霊長目にある人間の社会を、別の世界から逆にながめるといふことに役立ちます。

おサルの種類は200余種に及んでいますが、その多くは餌が豊富にある南方にすんでいます。それは、おサルが智慧があって気候条件の悪いところにすむことを嫌って、常夏のすみよい場所を選んだ結果でしょう。日本列島にすむニホンザルは私達と同様に、春夏秋冬の季節を味わっている地球上の最北端にすむ貴重な種類であります。

大阪府下の箕面でもこのニホンザルが立派に餌付けされて、彼等の社会生活の状態を皆様方の前に展開してくれています。この餌付けは、昔から出役していた箕面のおサルを、昭和29年、冬の一番餌の少ないときをねらって大阪市立大学の河村教授らによって始められました。

餌付けはどこでもよいというものではなく、定着させるには、その群がその序列に従って展開できる広さ、地形、陽あたり、水などがサルたちを安心させるものでなくてはなりません。このようなことをいろいろと検討が加えられた結果、移動のとき横切る地点であった現在の地点が選ばれました。

野生の状態での観察では、一般の野猿のように警戒心も強かったのですが、餌付けは驚くべき短期間の、およそ1週間で成功しました。このことは日本の記録ですが、オニギリを平気で食べるようになったのは2年後のことです。このころ現われたサルは70頭ほどの小群でしたが、その後のたゆまない努力が実を結んで、今では400余頭の群に成長しました。これは、餌付けの当初から引き続いて管理にあたっておられる伴東さんの功績といふべきでしょう。

「サルは動作もなかなかオウヨウですね」とたずねたところ目を細めて、「京阪神のお客は少しエチケットに欠けているといわれていますので、中にたった私としてはサルからおきる事故がないようにするには、まず、おサルを安定させることが最も大切なことであると思ひ、これにすべてをかけた。これが私の努力のすべてです。この群のおサルが安定しているのを見て下さい。」といわれました。なるほど、集合しているおサルの合図の声にもトゲトゲしい警戒の声は聞かれません。群の中心のメスザルはすべて子供をかかえていました。「この安定をいつまでも守ってやるのが私の仕事ですが、府民の方々の御理解ある援助が必要だ」と強調しておられました。

なかには、できの悪いのもいて檻に入れてこらしめていたのですが、酔った客が檻のカギを壊して檻を開けたため逃げ出してしまい、そのおサルは2度と伴東さんの前に姿を現わさなくなったそ



うです。このようなヤツほどフビンでたまらないということで、山を歩いているとき、木の葉がゆれると、そこにいるのではないかと探し求める気持ちは、何ともいえぬわびしさを感じるそうです。

箕面の野猿は、動物園の檻の中のおサルとちがって、人とサルとの互の信頼感によってつながっているものです。互にその信頼が欠除した場合は、野猿は人の意に従うどころか、ボスの命令一々永遠に私達の前からその姿を消してしまうことでしょう。

最近、私は山階先生の著「野鳥の滅る国、増える国」という本を読んで深く感銘しました。それには、直接管理にあたる人は勿論、周囲の方々のより温かい援助が、美しくえがかれていました。

私達も、この貴重な郷土のおサルをいつまでも見守っていきたいと思います。そして、万国博に來られる外国の人々にも、大阪府下の誇りとしてこの珍しい野猿を紹介すべきでしょう。

(松岡 惠爾)

表紙の写真説明

ニホンザル

ニホンザルは、別府の高崎山をはじめあちらこちらの観光地で盛んに餌付けが行なわれていますが、大阪府下のみのお公園でもたくさんいて人々に親しまれています。(みのお公園にて)

なきごえ1月号もくじ

新年のごあいさつ.....	2
サルの話.....	3
動物園グラフ.....	4.5
大阪府下の野猿(箕面の野猿).....	6
動物園ニュース.....	7

☆ 動物たちにお雑煮

お正月に干支のサルをはじめ、ゾウ、サイなどの動物たちにお雑煮のお祝いをうけました。

☆ 干支にちなむ“サルのおもちゃ展”開く

例年どおり、干支にちなむ“サルのおもちゃ展”を1月1日から15日まで、旧冷房ペンギン舎内で行っています。

町の動物学者吉田平七郎氏所蔵のサルのおもちゃ10カ国約150点が展示されて人気を集めています。



孫悟空の貯金箱

☆ キャンデーちゃんの書きぞめ

美しいふりそでを着て神妙に筆をとるのはチンパンジーのキャンデーちゃん。今年あたり年とあって書きぞめをしましたが、さてどんな字を書いたのでしょうか。



☆ カバのおこし入れ

新しいカバの家ができましたので、12月5日、古い家からおこし入れをしました。

約50mの距離を写真のようにパネルのトンネルをつくり、この中をお通りいただきましたが、カバは大変おく病ですから約1時間もかかってしまいました。



☆ 今年は私達の年です

当園の人気者チンパンジーのキャンデーちゃん、ヨウコちゃんの2頭が新年のごあいさつをしました。



☆ 社団法人 大阪市天王寺動物園協会理事会開かる

昭和42年12月7日寿殿本館で2回目の理事会が開かれ、副会長選任の件、事業計画(既に始めている手荷物預り、貸うば車、将来予定のもの)、その他について協議された。

なきごえ 昭和43年1月15日発行（毎月1回15日発行）第4巻第1号（通巻32号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-8401

定価 40円

